

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 VOL.24

READ

今こそ、前島密の情熱と改革心を

かんぽ生命は、2007年10月の日本郵政公社の民営分社化によって生まれた保険会社です。民営化で、税制などの優遇措置は廃止され、民間生保会社とイコールフッティングが図られたが、業務制限は従来のままです。マーケット構造が急激に変化する中で、変化に対応する経営の自由度が制限されているため、市場シェアの低下が続いています。



株式会社かんぽ生命保険 取締役兼代表執行役社長 山下 泉さん

山下 泉さん

やました いずみ

「かんぽ生命は、95年の歴史と伝統を持つ、新しい会社です。今回はそのユニークな特徴を「理解したく良い機会」と考え、私が仕事に取り組み上で原点となっている本を選びました。古い時代の書物もありますが、多くのメッセージが今も通用するものだと思います」

先達の言葉と行いに学び 一日一日を大切に生きる

日本郵政 齋藤次郎社長が述べられているとおり、郵政改革法成立を待って新しい業務を展開し、一刻も早く将来展望を開きたいと考えています。その中で今すべきことは、経営の原点に立ち戻り、社員と一緒に自分たちの使命を再確認し、新たな発展への基盤づくりを進めること。今回はそんな思いから、郵政改革の創業者前島密の自叙伝「鴻爪痕」を、最初の一冊として選びました。

郵政改革実現を通じ、経営の自由度を

郵政改革の「官から民へ」の流れは、この10年の出来事だ。民営分社化に伴い組織が5つに分かれる複雑な過程を経た今、かんぽ生命には「限度額原則1,000万円」を始め、業務範囲に厳しい制限が課せられている。新商品の提供が難しい状況下で市場競争の下で、過去10年間で保有契約件数も保険料収入も、ほぼ半減しかした。山下さんは、郵政改革の成功なしに、日本経済の再生はないという思いで、将来を前に見据えている。

浦々に展開する郵便局ネットワークを生かした地域密着のサービスに強みがあります。新しい時代にふさわしいユニバーサルサービスの提供によって、「最も身近で、最も信頼される保険会社」の表現を目指していきます。

「真の向サービス」

「官業脱却を心で伝える」 次の一冊は、日本郵政公社 生田正治初代総裁の書かれた「郵政改革の原点」です。国改善を推し進めた4年間の軌跡がビビッドに描かれています。郵便局が地域の拠点としてお客様に愛され続けるために、今後とも「真の向サービス」の精神で最も身近で最も信頼される保険サービスを提供していきたいと考えています。

「真の向サービス」の精神で最も身近で最も信頼される保険サービスを提供していきたいと考えています。三冊目には「不機嫌な職場」(高橋克徳、河合太介、永田裕、渡部幹 著)を挙げます。民営化の目的は、郵便局ネットワークを効率的に生かす、より良いサービスを提供すること。しかし度重なる制度改革で、現場に混乱が起ころう。閉塞感や疲労感が広がりました。本書は、ギスギスした状況に陥った組織を、



1976年7月、日本銀行入行。松本支店長などを経て、95年12月、同ロンドン駐在参事、98年4月、同金融市場局長、2002年2月、日本銀行を退社し、同年アフセンチュア株式会社金融サービス本部金融営業本部長。03年4月、日本郵政公社常務理事。以降、専務執行役員、総裁代理執行役員。07年10月、株式会社かんぽ生命保険取締役兼代表執行役社長。

「いい会社づくり」の取り組みとして、社員間のコミュニケーションを改善し、共に助け合える職場を目指す。いらいやいませ運動が、社員の自発的なアイデアから生まれた。また風通しの良い職場づくりと業務改善をボトムアップで進める「かんぽハサクラプロジェクト」を展開中。社員の創意工夫を生かす、アイデアコンテスト

も全社を挙げて実施されている。こうした取り組みを通じて、大きな組織改編の過程で弱まったチームとしての結束力が着実に高まりつつある。「会社のパフォーマンス」は、個人の能力と、個人間の連携、組織の力のかけ方によって決まります。現在のかんぽ生命では、人材育成、組織力の向上の中で自分らしく精いっぱい働きたい社員とともに明るく元気に前進していきたいと思っています。

■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、山下泉さんが語るリーダー論を紹介しています。http://adv.asahi.com/ 朝日新聞 広告 読者へ

山下 泉さんがすすめる5冊

5 book recommendations: 1. 鴻爪痕 (日本郵政改革の原点) by 前島密. 2. 不機嫌な職場 by 高橋克徳 et al. 3. 不機嫌な職場 by 高橋克徳 et al. 4. 郵政改革の原点 by 生田正治. 5. 激動の時代を生き抜く by 岩波書店.

Book advertisements for Mikasa Shoten. Includes titles like '速読の教科書' (Speed Reading Textbook), '20代でやってみたいこと' (Things I want to do in my 20s), '55歳からの一番楽しい人生の見つけ方' (The most enjoyable way to find life from age 55), and '免疫力 疲れない体をつくる' (Immunity: How to build a body that doesn't get tired).